

紀州

誌

じゃーなる

発行所 紀州じゃーなる
 発行責任者 宜保 高弘
 毎月五日・十五日・二十五日発行
 月額 二,五〇〇円
 住所 和歌山市岩橋一五八五の一七
 電話・FAX (073) 47317570

題字 洲田 寛一

I N D E X

☆ひと
 平松総合調査事務所代表
 平松直哉さんに聞く

☆市民の求める市長とは…
 ☆加納浄水場入札
 何故、三社だけの参加？

☆出版記念会
 「日本国への遺言状」

☆街角短波ほか



「盗撮天国和歌山の汚名返上したい」と、語る

平松 直哉さん

第 171号

(平成17年7月15日)

ひと

「盗撮天国、和歌山県の汚名返上に頑張りたい」
 「県内では十カ所の盗撮現場を確認しています」

平松直哉・平松総合調査事務所代表

「和歌山県のお風呂場は、盗撮天国。何とか、無くしたい」。本県の盗撮の実態を調査する、平松直哉氏、三十九歳、和歌山市紀伊出身。総合調査機関、平松総合調査事務所代表。

マスコミで活躍する犯罪ジャーナリスト、黒木昭雄氏から、「信頼出来る調査員」とのお墨付きをもらった人物。

盗聴調査への関心は、知人の刑事からの依頼が最初。もちろん人間関係で、仕事はポランティア。一年がかりで調べあげ、情報を提供した。が、県警はその結果を表に出さなかった。悔しさが走る。

たまたま、雑誌「プレイボーイ」で犯罪ジャーナリスト黒木昭雄氏の「実録・盗撮ビデオはこうして作られる」の記事を読んだ。メールで和歌山の盗撮実態を感情に任せて打った。そのメールに黒木氏が反応した。誰も知り得ない情報が見知らぬ人から送られて来たからだ。二人は出会い、意気投合した。

「風呂というのは癒しの場。それが知らない間に盗み撮られ、ビデオになって全国に出回る。もし、自分の身内がそういう目にあったらどう思います。私は許せない」。正義感が強い。

和歌山の露天風呂や大きな浴場、トイレでの盗撮現場は県内で十カ所を確認。関西では二十五カ所を特定しているという。県内の盗撮ビデオだけでも千本を余裕で越えるだけ流出しているという。実態は、把握出来ない。週刊「文春」では、白浜町菅温泉の盗撮現場を暴露した。

「和歌山は盗撮に関して防衛意識の無い県。盗撮されるためにある県といっても過言でないでしょうね」。平松さんが調べた写真と販売されているビデオを観させてもらった。画面は同じだった。

ある日、盗撮について世耕弘成参院議員と話した。世耕議員は、これをきっかけに盗撮防止法を制定させた。

法制定後、平松調査事務所を訪れた世耕議員は、「やっと法律制定にこぎつけた」と。法制日で盗撮防止の活動がやっとスタート地点に立った。平松さんは今月中には、内閣府へNPO法人「全国盗撮犯罪被害者対策室」を申請する。被害者へのフォローと企業のア

フターフオロード。また、一步前進を目指す。

「私の活動が世耕議員を通じて法として成立しました。私が死んでも法は残る。有り難いことです」。盗撮、絶滅へ平松さんの調査はエンドレスだ。

市民の求める市長とは

宇治田栄蔵県議の側近が、「99%出馬する！」と、発言
再選準備の大橋市長、噂の宇治田、和田市議をウオッチ

故・仮谷志良前知事時代から裏方として選挙に奔走している、政界ご意見番と言われる、A氏が次期、和歌山市長選について「宇治田栄蔵県議が99%出馬するだろう」と、発言したことが県政界に波紋を広げている。

再選を目指す、大橋建一・和歌山市長は事務所をこれまでの二倍の広さのある築港に移転、臨戦態勢に入った。

そして、和歌山市議会の大御所、和田秀教市議は出馬については今だ、「黙して語らず」のスタンスだが、支援者に議会活動を二十数ページに渡って書いた、報告書を送付した。

和歌山市長選の前哨戦は賑やかだ。本紙は多くの市民が望むだろうと仮定した市長像について書いてみた。

公共事業を受注しても赤字を出させる行政いかななものか

最近、和歌山市内の建築業者からよく聞く声がある。「工事受けても赤字や。でも、仕事がないから取らないと！」。元請けならまだしも下請け、孫受け会社は悲惨な金額で請け負っている現実があるようだ。

建築に限らず、あらゆる公共事業しかりである。どの首長も選挙戦では『地元企業育成』などと叫ぶ。首長になれば、『財政難だから我慢して欲しい』に。選挙と現実は違うようだ。

仮に、千万円の公共工事があるしよう。九百万円で落札したとしても仕事をしても請け負った側は赤字。自分の会社経営圧迫を覚悟で仕事を取る。少なくなっている仕事も、そうせざるを得ない状況を作り上げているようだ。仕事をしながらも行政に対する不信感が高まる。

また、千万円で受注したとする。利益がない。公共工事を行って